

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：33936

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04276

研究課題名(和文)福祉教育におけるアクティブラーニングのプログラム開発とレリバンスの解明

研究課題名(英文) Program development of active learning and clarification of relevance in welfare education

研究代表者

岡 多枝子(Oka, Taeko)

人間環境大学・松山看護学部・教授

研究者番号：30513577

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：保健・医療・福祉・教育分野の専門職を志す学生に対する福祉教育等にアクティブラーニングを導入した授業のプログラム開発と、それによって学生が獲得するレリバンス(Relevance：目的と内容・結果の整合性、意義、関連性)を総合的に検討した。プログラムは「オリエンテーションとシラバスの『アカウントビリティ(accountability:説明責任)によるオープニング』、インタラクティブな活動を通じた『レジリエンス・エンパワメントの往還』、地域・社会の多様な価値の先へ『つながり・深まるクロージング』から構成され、FD研修やティーチングポートフォリオが授業改善に寄与するとの示唆を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保健・医療・福祉・教育分野の専門職を志す学生に対する福祉教育等にアクティブラーニングを導入した授業のプログラム開発とそれによって学生が獲得するレリバンスを総合的に検討した報告は管見の限り見当たらず、本研究成果は学術的意義がある。

また本研究で見出された「説明責任を果たすオープニング、双方向の活動によるレジリエンス・エンパワメント、ダイバシティの中でつながり・深まるクロージングの好循環は、保健・医療・福祉・教育分野の専門職養成はもとより、SDGsの目標達成やCOVID-19下で新たな社会枠組みの構築に貢献する社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：Program development of a class that introduced active learning into welfare education for students who aspire to become professionals in the fields of health, medical care, welfare, and education, and the relevance that students acquire through it. Relevance was comprehensively examined. The program consists of (1) Orientation and syllabus Opening by accountability, (2) Return of resilience and empowerment through interactive activities, and (3) It consists of connecting and deepening closing beyond the diverse values of the community and society. It was suggested that FD training and teaching portfolio contribute to lesson improvement.

研究分野：保健・医療・福祉・教育専門職養成へのアクティブラーニング導入

キーワード：福祉教育、アクティブラーニング、レリバンスの解明、レジリエンス、当事者性、ルーブリック・ライブ評価、保健・医療・福祉・教育専門職養成、KJ法

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

社会変動に対応する世界的教育改革の中で OECD のキー・コンピテンシー（主要能力）が PISA(国際的学習到達度調査)に組み込まれるなど、能力観の転換が求められている。

研究代表（岡）は看護師・保健師・養護教諭・高校福祉科教員など、保健・医療・福祉・教育の専門職養成にアクティブラーニングを導入した実践を行ってきた。しかし研究開始当初の教育現場では、アクティブラーニングの意義（レリバンス）や教育方法は十分浸透しておらず、試行錯誤の中にあった。

#### 2. 研究の目的

アクティブラーニングを導入した福祉教育のプログラム開発を行うとともに、そのレリバンスを明らかにして、保健・医療・福祉・教育専門職の養成に貢献する。

#### 3. 研究の方法

##### (1) アクティブラーニングのプログラム開発

研究代表が本研究期間中に担当する「社会福祉学」「社会保障論」「学校保健」「健康相談活動論」「公衆衛生看護援助論」「福祉科教育法」「教職実践演習」「家族社会学」「看護研究」などの科目にアクティブラーニングを導入して、参与観察と学修成果を対象とした質的研究を行い、プログラム開発と評価を進める。

(2) レリバンスの解明と、授業モデルの作成、評価の構造化を行う。

(3) 研究を総括して、研究成果の発信と汎用化を進める。

#### 4. 研究成果

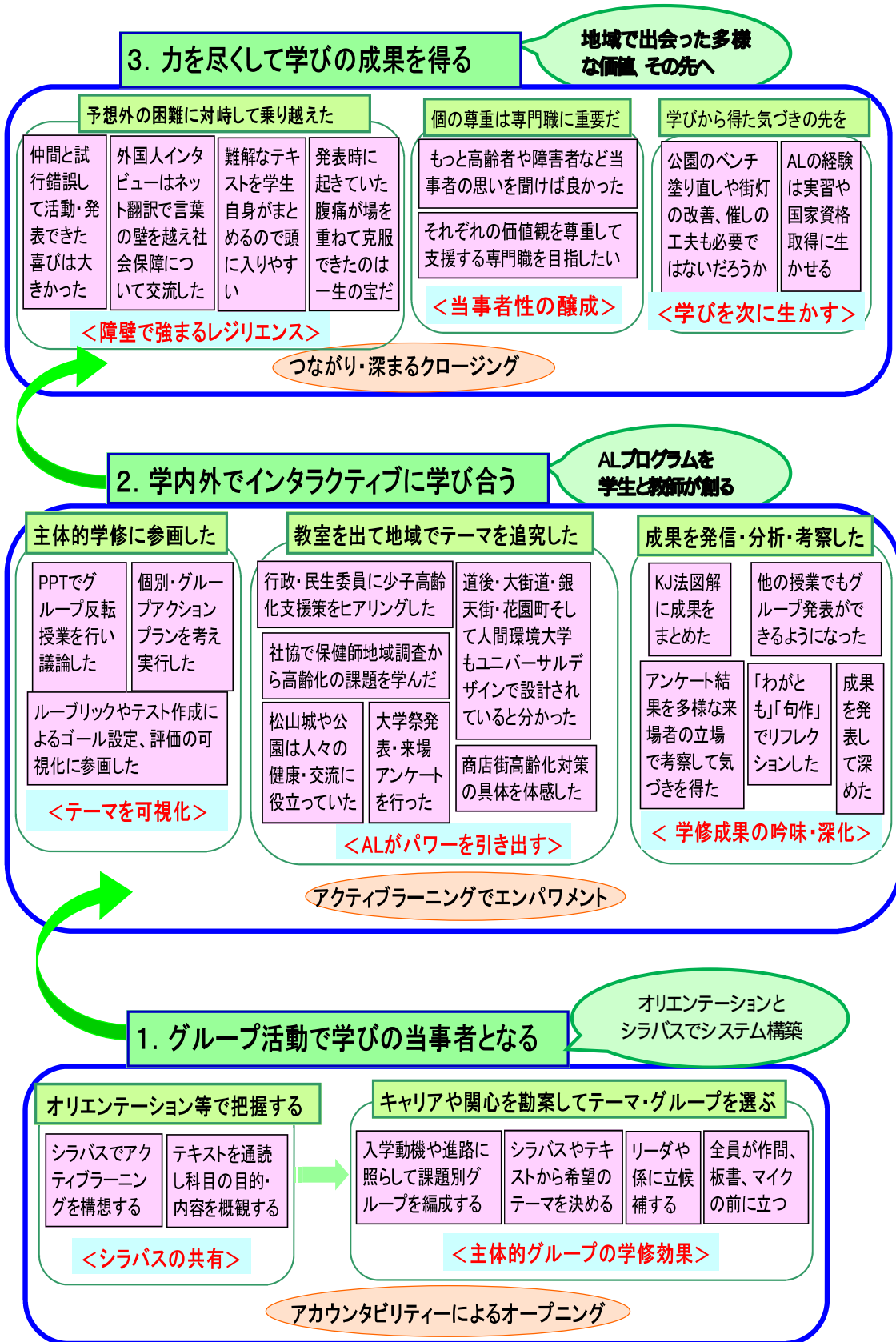
##### (1) 研究の結論

保健・医療・福祉・教育専門職を志す学生がアクティブラーニングで獲得するレリバンスに関する実証研究を総括した。その結果、オリエンテーションとシラバスでシステム構築された『アカウントビリティーによるオープニング』、AL プログラムを学生と教師が創ることによる『アクティブラーニングでエンパワメント』、地域で出会った多様な価値、その先へ『つながり・深まるクロージング』がレリバンスに寄与していた（図1）。

##### (2) 今後の課題

AL を導入したこれらの授業実践および実証研究には、学会活動や授業改善に向けた教職員の FD・SD 研修・実践交流の成果が寄与しており、教育と研究の相互作用の重要性が示唆された。実証研究を通じたプログラム開発と評価の構造化、ティーチングポートフォリオを用いた授業改善の継続、ワークショップ型研修会を開催して研究成果の発信と汎用化を進めることが今後の課題である。

また研究途上において SDGs に関する授業構築・評価や、COVID-19 による遠隔授業に関する課題に直面して実証研究を開始している。



1)2019.9.19 2)花園町 3)保健・医療・福祉専門職を志す学生がALで獲得するレリバンズ 4)岡多枝子・三並めぐる

図1 「保健・医療・福祉・教育専門職を志す学生が獲得するレリバンズ」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 岡多枝子, 三並めぐる, 出沢秀子, 眞鍋瑞穂	4. 巻 7
2. 論文標題 AL・SDGsによる福祉科教員養成のレリバンス - 教職学生の変容プロセスとエンパワーメント	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 龍谷教職ジャーナル	6. 最初と最後の頁 66-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 2188-4374	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡多枝子, 三並めぐる	4. 巻 2
2. 論文標題 保健・医療・福祉専門職を志す学生がアクティブラーニングで獲得するレリバンス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康生活と看護学研究	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 2434-3986	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡多枝子・眞鍋瑞穂・三並めぐる	4. 巻 第5号
2. 論文標題 看護学生に対する福祉・社会学教育のレリバンス - アクティブラーニングによる実証研究 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 龍谷教職ジャーナル	6. 最初と最後の頁 18-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 2188 4374	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 三並めぐる, 岡多枝子
2. 発表標題 「大学教育の質保証」に向けた遠隔授業・卒論指導・キャリア支援
3. 学会等名 国立情報学研究所【第9回】4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Taeko Oka , Meguru Minami
2. 発表標題 Improving “Relevance” of First Aid Skill of School Nurses-Image of School Nurse’s Room through a Case of Active Learning.
3. 学会等名 International Conference on Advancement in Health Sciences Education and Professions, Bangkok, Thailand (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taeko Oka , Meguru Minami
2. 発表標題 Relevance of Health, Medical, Welfare, Education Program by Active Learning.
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Meguru Minami , Taeko Oka , Kanae Ootubo
2. 発表標題 Construction of crisis management practice program in first aid treatment of nursing teacher.
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡多枝子 , 三並めぐる
2. 発表標題 養護教諭・保健室・学校保健のレリバンス - ALで浮上する当事者の眼差し -
3. 学会等名 第51回中国・四国学校保健学会 (高知)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡多枝子, 三並めぐる, 奥山留美子
2. 発表標題 福祉科教員養成教育のレリバンス - ALで獲得した教職学生の成果 -
3. 学会等名 日本社会福祉学会 中国・四国地域ブロック第51回高知大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡多枝子・三並めぐる
2. 発表標題 アクティブラーニングによる保健・医療・福祉教育のレリバンス
3. 学会等名 SPOD Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡多枝子
2. 発表標題 アクティブラーニング - 学生主体のプレゼンテーション - 保健・医療・福祉専門職を志す学生がアクティブラーニングで獲得するレリバンス
3. 学会等名 電子情報通信学会 IA研究会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡多枝子, 三並めぐる, 出沢秀子
2. 発表標題 ALを導入した保健医療福祉教育のプログラム開発とレリバンスの検討
3. 学会等名 日本保健福祉学会（山梨）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡多枝子・里見達也・辻村伸代
2. 発表標題 アクティブラーニングによる 高大接続福祉教育の質的研究－基礎学力と専門性の葛藤を超える－
3. 学会等名 日本福祉教育・ボランティア学習学会第24回あいち・なごや大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡多枝子・三並めぐる・日川幸江・眞鍋瑞穂
2. 発表標題 看護師・保健師学生に対する社会福祉学教育 当事者性を高めるアクティブラーニング
3. 学会等名 平成30年度全学FD推進プログラム 大学教育カンファレンスin徳島
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡多枝子・奥山留美子・鈴木幹治
2. 発表標題 福祉教育におけるアクティブラーニング
3. 学会等名 日本福祉教育・ボランティア学習学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中井 俊樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 180
3. 書名 アクティブラーニングの活用	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----